

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次のa～dの各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 金属を燃焼させる。 (1) ぜんしょう 2 ねんしょう 3 てんしょう 4 えんしょう)
b 玄米を釜に入れる。 (1) げんまい 2 げんべい 3 ごくまい 4 せんべい)
c 筆を墨汁にひたす。 (1) かくしゅう 2 こくじゅう 3 ばくしゅう 4 ぼくじゅう)
d 任地に赴く。 (1) ゆ 2 つ 3 おもむ 4 おどろ)

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 薬をメンボウにつける。
1 外国とのボウエキに従事する。 2 十二月に向けてボウネンカイを計画する。
3 友だちでありアイボウでもある。 4 努力によってソンボウの危機を乗り切る。
b 車がコシヨウする。
1 業務にシシヨウをきたす。 2 捜査によって新たなシヨウゲンを得る。

- 3 母校に来てカンシヨウにひたる。 4 契約するにはシヨウフクしかねる条件だ。
c おいしそうなゼンサイが運ばれてくる。
1 商売にサイカクのある人だ。 2 要人フサイが来日する。
3 庭でヤサイを育てる。 4 盛大なサイテンが開かれる。

- d 荒れた畑をタガヤす。
1 地中のコウブツ資源を採掘する。 2 日本のテツコウ産業について調査する。
3 宮殿からコウタイシが出てくる。 4 温暖でノウコウに適した地域である。

(ウ) 次の各文のうち、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 かわりの新しい商品をご用意しました。
2 私はこのあと遅れてご到着なさいます。
3 先生が本をお持ちくださいました。
4 お集まりいただきありがとうございます。

(エ) 次の文章中の□に入れることわざとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

小学生の頃は本を読む習慣がなかったが、中学生になって毎朝十分間の読書が続いていると、三か月間で長編小説を全巻読み通すことができた。まさに□だと感じた。

- 1 氷山の一角
2 船頭多くして船山に上る
3 大山鳴動して鼠一匹
4 塵も積もれば山となる

(オ) 次の例文中の——線をつけた「が」と同じ意味で用いられている「が」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 机の上の本が落ちた。

- 1 最新式の機種が売られている。
 - 2 我が子の成長を映像におさめる。
 - 3 和食もいいが洋食もいい。
 - 4 集合時間は早かったが遅刻者はいなかった。
- (カ) 次の短歌を説明したものと最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

たかしま
高嶋 けんいち
健一

- 1 秋の夕日が草地だけに当たって明るさが残っている様子を見ながら幸せな気分にはたっていると、すっかり暗くなって月の光が草地を照らしはじめ、ほんのりと寂しさを感じる様子を描いている。
- 2 秋の夕暮れ時で周囲は暗くなっていくが、草地にはまだ夕日が当たり明るさをとどめているのを見たことで、幸せが残っているかのように思え、ほんのりとあたたかさを感じる様子を描いている。
- 3 秋の夕日が草地だけに当たり、明るさをとどめている様子を見て幸せが残っているかのように感じたことで、夜になったあとも夕暮れの記憶が残り、ほんのりとあたたかく感じる様子を描いている。
- 4 秋の夕暮れ時に草地を残して周囲が暗くなっていくとともに、昼間の明るさとあたたかさによって感じていた幸せがなくなっていくかのように思えて、ほんのりと寂しく感じる様子を描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「那珂川水産高等学校（ナカスイ）」に入学した「私」は、「ご当地おいしい！甲子園」への出場を目指し、同級生で下宿先が同じ「芳村小百合」、親戚一同が「ナカスイ」出身の「大和かさね」とチームを組んでいる。ある日、授業の一環で魚の養殖池を掃除していると、白点病にかかった魚がいたため、「私」は「神宮寺先生」から、感染を広げないよう池ごとに網を替えて作業するように指示を受けた。後日、「小百合」は隣の養殖池の魚にも白い斑点が出ていることに気づき、「私」に掃除のときのことを聞いたが、「私」は網を替えたかどうか覚えていなかった。

（著作権上の都合により省略）

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(村崎^{むらさき} なぎこ)「ナカスイ! 海なし県の水産高校」から。一部表記を改めたところがある。

(注) 渡辺 || 「私」の同級生。あとに出てくる「進藤」、「島崎」も同じく「私」の同級生。

神無月アキラ || 「かさね」が好きなアニメのキャラクター。

お疲れさま会 || この日、「ご当地おいしい! 甲子園」の校内予選会があり、参加者をねぎらうために「私」の先輩たちが放課後に開いた。

「青春」 || サムエル・ウルマンの詩。「私」は「神宮寺先生」にこの詩のことを教わった。

(ア) 線1 「小百合ちゃんの手に触れようとしたら、思いつきはねのけられた。」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「私」は「小百合」が話を聞かなかったことを非難するために手を伸ばして引き止めようとしたが、「小百合」は「私」と話さずに立ち去りたいと思っている。

2 「私」は「小百合」に思い違いがあると感じ近寄って説明しようとしたが、「小百合」は「私」が謝罪しないことに不満があり話をしたくないと思っている。

3 「私」は「小百合」に考え直してもらおうと思って手を伸ばしたが、「小百合」は「私」が魚を大切に扱おうとしないので一緒に活動できないと思っている。

4 「私」は「小百合」の誤解を解こうと近寄って手をつかもうとしたが、「小百合」は「私」に触れられることに恐怖を感じてすぐさま逃げたいと思っている。

(イ) 線2 「力が抜け、危うく缶を落としそうになった。」とあるが、そのときの「私」を説明したも

のとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 養殖池の魚に白点が現れていることを確認し緊迫した状況となる中で、「かさね」が場の雰囲気こそぐわな言動で現れたため、戸惑うと同時に拍子抜けしている。

2 養殖池で魚の状態を見ても魚の様子に変化がないことから困惑していたところ、「かさね」がふざけた様子で現れて皆を笑わせたため、気持ちが和やかになっている。

3 養殖池の魚を同級生と確認してみると白点のある魚がいたので全員から責められて困っていたところ、「かさね」が助けにきてくれたため、安心して気が抜けている。

4 養殖池の魚の白点を同級生と確認して病気の治し方について相談していると、遅れてやってきた「かさね」が飲み物を持ってきてくれたため、驚きつつ喜んでいる。

(ウ) 線3 「大和家はナカスイ一族だもん。これくらい、わかっちゃうんだわ。」とあるが、そのときの「かさね」を説明したも

のとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 同級生の求めに応じて魚の白点の原因を説明したことを誇らしく感じて、自信満々になっている。

2 懂れているキャラクターになりきって事件を解決したことを喜んで、感情を高ぶらせている。

3 苦境に陥る同級生を偶然にも助けることができたが、過剰に称賛されてしまい戸惑っている。

4 白点の原因を言い当てたことで得意になる一方で、同級生から称賛されていることに照れている。

(エ) 線4 「でも、もう引き返せないでしょ！ 密になったら絆ができちゃったんだもん。」とあるが、ここでの「私」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「かさね」の発言に納得できるところがあると感じながらも、「小百合」と仲直りするための準備を整え終えているため、「かさね」の言ったことには従えないという気持ちを込めて読む。

2 「かさね」が心配して「小百合」と仲直りする手助けをしたと言ったことをうれしく思うものの、「小百合」と二人きりで話し合うつもりなので、助けはいらぬという気持ちを込めて読む。

3 「かさね」が悩みを聞いてくれなかったことに不満を抱き、ドアの向こう側にいる「かさね」に不満を伝えようと、「小百合」と仲直りできない辛い気持ちをぶつけるような調子で読む。

4 「かさね」の発言が正しいのかもしれないと思いつつも、「小百合」を仲間だと感じているので距離を置く気にはなれず、「小百合」と向き合おうという決意を固めたような調子で読む。

(オ) 線5 「小百合ちゃんの背中が震えている。」とあるが、そのときの「小百合」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「私」を魚のことで責めたあとに同級生から言い過ぎだと怒られて悪いことをしたと思っ後悔している、
「私」が仲直りしたいと言ってきたので、驚くと同時に困惑している。

2 「私」を大きな声で責めたあとに勘違いしていたことがわかったが仲直りする方法がわからずに困っている、
「私」が話しかけてきたので、抑えていた思いがあふれ出ている。

3 「私」に対して魚を大切にできない人だと決めつけたことを謝罪しなかったが、「私」が一方的に責めてきたので、仲直りできないかもしれないと思っ泣きそうになっている。

4 「私」に対して疑いかけたことを反省して謝ろうと思っしたが、謝れずに悩んでいると「私」が泣きながら仲直りしたいと言ってきたので、気持ちが通じ合ったと感じている。

(カ) 線6 「私はできるだけ優しい声で言った。」とあるが、そのときの「私」を説明した次の文章中の I・II に入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

「私」は「ナカスイ」に入学して、学校になじめず I ときに、「青春」の詩を知ったことをきっかけに立ち直ることができた。そのため、今の「小百合」の状況が以前の「私」と重なって見え、気持ちに寄り添いたいと思うのに加え、 II と感じ、「小百合」ともつと絆を深めていこうと思っている。

1 I 「かさね」に相談をもちかけた II 笑顔でそばにいてほしい

2 I 「かさね」に励ましてもらった II 「青春」の詩を読ませたい

3 I 「神宮寺先生」に泣いてすがった II 一緒に「甲子園」に出場したい

4 I 「神宮寺先生」に泣きながら話をした II 一緒に養殖池を掃除してほしい

(キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ランチュウに白点が生じたことよって「私」と同級生の間でできた心の隔たりを、互いの気持ちを述べることで乗り越えていく過程について、「私」の心情を中心に描いている。

2 同級生の言い合いがもとで生まれたチーム内のわだかまりを、「私」が一人ひとりと話すことで解消してチームがまとまっっていく過程について、短い文を重ねて軽快に描いている。

3 一度は仲間のことを拒絶した「私」に対して、同級生が積極的に働きかけることで再び心を開けて仲直りする過程について、一人ひとりの心の動きを丁寧に追っことで描いている。

4 ランチュウの体に白点が出たことをきっかけにして始まった騒動を、「私」が先生の力を借りつつ同級生と話し合うことで解決していく過程について、「私」の成長を軸に描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(注) なかの中野 のぶこ信子『バイアス社会』を生き延びる」から。一部表記を改めたところがある。
標準偏差 \parallel 平均からどれぐらい離れているかをあらわす数値。
リソース \parallel 資源。

(ア) 本文中の **A**・**B** に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|------|---|---|------|---|------|
| 1 | A | まず | B | つまり | 2 | A | また | B | ところが |
| 3 | A | そして | B | なぜなら | 4 | A | ですから | B | ところで |

(イ) —線1「そこにこそバイアスの存在理由がある」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 人間が情報に接する際に理解を不十分にする原因となるバイアスが残ったのは、脳の疲労を回復させる効果があるからだということ。
- 2 人間の正確な判断を妨げるような仕組みであるバイアスが残ったのは、人間が生き延びる上で必要な面があるからだということ。
- 3 人間に認知の歪みを生じさせる原因となるバイアスが残ったのは、人間の判断力を補強することに有効であるからだということ。
- 4 人間の理解を不完全にするような仕組みであるバイアスが残ったのは、人間が正確な計算をするのに不可欠であるからだということ。

(ウ) —線2「人間の脳の限界」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 人間の脳は大きさの制約があり、短い時間に高速で正確な判断をすることができないということ。
- 2 人間の脳は体積が大きくなったとしても、性能を向上させることはできない構造だということ。
- 3 人間の脳はエネルギーを節約することはできるが、論理的に判断することはできないということ。
- 4 人間の脳は現状の大きさのままでは、瞬時に大まかな答えを導き出すことはできないということ。

(エ) —線3「人間も、この鳥の習性と似ているところがあります。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 鳥が群れで行動する際に意思を伝え合わなくても、周辺の数羽の動きから次に進む方向を知ること。似て、人間は周囲の人に相談しなくても全体の様子を参考にして次の行動を決められるということ。
- 2 鳥が群れの中にいるリーダーの動きを見ることで、群れの進む方向を感じ取っているのに似て、人間はリーダーの意思を集団全体の意思として決めつけようとする性質を持っているということ。
- 3 鳥が群れで飛ぶ際に群れ全体の動きを認知せず、周辺の数羽の動きから次に進む方向を捉えているのに似て、人間は周囲の数人の特徴を集団全体の特徴として捉えてしまう傾向があるということ。
- 4 鳥が群れで動く際に周辺にいる数羽の動きが見えなくても、群れの動きを推測して進んでいるのに似て、人間は周りにいる人の様子が見えないときでも見えているように振る舞いやすいということ。

(オ) 線4 「科学的な根拠も検討しないまま、よく知らない人たちに聞いてすべてひとくくりにしてしまう。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 物事を複数人で検討してから判断する場面よりも、誰にも頼れず一人で判断しなくてはならない場面の方が多いため。

2 異なる意見の内容を検討してから判断するよりも、直感に従って一人で判断する方がよりよくなることが多いから。

3 ゆっくりと時間をかけて検討してから判断するよりも、有力な意見に従って判断した方が正解となることが多いから。

4 物事をじっくり検討してから判断する場面よりも、時間をかけずに周囲の状況に応じて判断する場面の方が多いため。

(カ) 線5 「人間である限り、私たちが自分のバイアスから自由になるのは難しい」とあるが、そのことについて筆者はどのような考えを述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 私たちは素早く論理的に判断しようとする脳の性質を持つため、問題を解決する際には時間をかける必要があるということに自覚し、心にゆとりを持つようにするべきだ。

2 私たちは万能とは言えない脳によって判断しなければならぬため、間違えることが多くなるということを理解し、生活の中では重要な判断を避けるようにするべきだ。

3 私たちは短い時間で物事の概要を捉えようとする脳の性質を持つため、物事を必ずしも正しく判断できているわけではないということに自覚し、生活していくべきだ。

(キ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 人や物事に対する偏見や差別的な感情を生むバイアスが認知に対して与える影響を説明し、生物としての生感を踏まえた上で、バイアスの影響からどのように逃れるといいか論じている。

2 人間の認知の歪みを意味するバイアスが人間の特質として存在し続ける理由を説明し、認知に関する仕組みや脳の性質を踏まえた上で、バイアスをどのように扱うといいか論じている。

3 物事に対する人間の理解や解釈を左右するバイアスのよい点と悪い点を説明し、人間の脳の仕組みを踏まえた上で、不確実な情報に振り回されないためにはどうすればいいか論じている。

4 正しさよりも処理の速さと効率性に比重を置くバイアスについて説明し、人間の脳の性質を踏まえた上で、物事に対して常に正解を出すためにはどのように工夫すればいいか論じている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注) 与右衛門、四国の大名某の候に仕官せんと約して、(年俸として四五百石もらえることに決まった) 秩も四五百石にも定められたりと聞こゆ。よりて帰つて母に告げて、「共に国に行かん。」と言ふ。母言ふ、「我年老いて、他国の家中に住居することは心遣ひなり。我はここに留まりて、知己の間にて余年を養はん。親族もあることなれば、我が養ひに心置きなく、汝行きて仕官せよ。」と言ふ。与右衛門、これによりて官を辞せんと請へども、君侯許さず、やむ(主君) ことなく国に行きたり。(知人) (これから先の人生) (辞退す)

その後母病氣付けりとて、郷信来れり。(故郷からの手紙) 与右衛門また官を免せんことを請ふ。君侯また許さず。よりて与右衛門、馬に乗じて狩りに出づる体にて出で去る。(イ)

その夜も帰らず。(ウ) その翌日も帰らず。近隣の人怪しみて戸を開き入りて見れば、(工) 仕器完然たり。机上に一封の書あり。その書に言ふ、「君侯より我に賜りたる禄を以て、(給料) 儒者を召し抱へられれば、我よりすぐれたる儒者来るべし。我は母の一子なり。母は我にあらざれば子なし。君は我にあらざとも儒臣あまたあるべし。よりてしばしば官を辞すれども許されず。今母病めりと聞きて坐臥安んぜず。よりて押し官を辞し、職を棄て、郷里に帰る。願はくは宥恕をたまへ。」と書きてあり。君侯その家財を棄て去りしを聞き

て、母を養ふ財産なからんことを慮りて、使者をやり黄金を贈りたまはる。(お許しください) 与右衛門辞して曰はく、「君侯の恩遇我に過ぎたり。我押しして帰るは、我が罪大なり。その上また厚賜を受けては、我が罪を重ぬるなり。」とてつひに受けず。後母疾癒えて長寿せり。(心穏やかに生活できない) (無理に)

与右衛門辞して曰はく、「君侯の恩遇我に過ぎたり。我押しして帰るは、我が罪大なり。その上また厚賜を受けては、我が罪を重ぬるなり。」とてつひに受けず。後母疾癒えて長寿せり。(十分な贈り物) 「坐臥記」から。

(注) 与右衛門 中江藤樹。江戸時代前期の学者(一六〇八―一六四八)。現在の滋賀県出身。儒者 儒教を学んだ人。

(ア) 線ア～エの中から、他と主語が異なっているものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ア 2 イ 3 ウ 4 エ

(イ) 線1「汝行きて仕官せよ。」とあるが、そのように言ったときの「母」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 年老いて他の国に住むようになることや生活の面倒を見てくれる人が息子以外にはいないことが心配なので、息子には家に残ってもらい、別の人が役人になってほしいと考えている。
- 2 年老いてから他の国に引越して生活するのは心配である上に、今住んでいる場所には知人や親戚も住んでいるので、息子には一人で移住して役人になってほしいと思っている。

- 3 今住んでいる場所なら誰にも頼らずに一人で生きられる上に、年老いてから他の国へ引越すのは心配なため、息子には一人で別の場所に行って役人になってほしいと思っている。
- 4 新たな場所には知人や親戚も住んでいて生活したとしても心配がないと感じており、年老いて他の国に住むのもよいと思うため、息子が役人となる所について行きたいと考えている。

(ウ) 線2 「馬に乗じて狩りに出づる体にて出で去る。」とあるが、そのときの「与右衛門」を説明したものであるとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「母」が病気になるということ「君侯」に教えてもらったが、仕事を辞めて帰ることは許されなかったため、狩りへ出かけるふりをして「母」の住む所へ向かった。

2 「母」の病気を知って生活の面倒を見るために一晩だけ帰りたいと訴えたが、「君侯」が認めてくれなかったため、狩りに出かけるふりをして馬に乗って故郷へ帰った。

3 「母」が病気になるという故郷からの手紙を受け取り仕事を辞めたいと願ったが、「君侯」に許されなかったため、狩りに出かけるふりをして「母」のもとに向かった。

4 「母」が病気になるので仕事を辞めたいと考えたが、周囲の人々に相談できなかった上に「君侯」に言い出せなかったため、狩りへ出かけるふりをして勝手に故郷へ帰った。

(エ) 線3 「職を棄て、郷里に帰る。」とあるが、「与右衛門」がそのようにした理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「君侯」にとって代わりの儒者はたくさんいるが、「母」にとって「与右衛門」は唯一の息子であり、「母」が病気だと心配で落ち着いて生活できないから。

2 「君侯」が他の儒者を雇えないうちは辞めるつもりはなかったが、「母」には「与右衛門」しか子どもがおらず、病気の「母」を自分支えてあげたいから。

3 「君侯」が優秀な別の儒者をすでに雇い始めている上に、「母」にとって「与右衛門」は一人息子であり、病気の「母」を支えるために故郷で暮らしたいから。

4 「君侯」には多くの儒者がいて支えてくれるが、「母」には「与右衛門」以外に子どもがいない上に、「母」からの手紙と一緒に暮らしたいと書かれていたから。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 四国で役人として働いていた「与右衛門」は「母」の病気を心配して荷物を置いたまま帰った上に、「君侯」から送られてきた黄金を受け取らず、「母」は病気が治り長生きすることができた。

2 「与右衛門」は四国で役人になったが、「母」が病気になる故郷へ帰ったところ、「君侯」が黄金を持って見舞いに来たので、感謝しつつ黄金を辞退して看病していると「母」は回復した。

3 「与右衛門」は四国の大名に仕えていたところ、「母」が病気になるため財産を置いて帰ったが、「君侯」から黄金が届いたので、一部だけを受け取って看病を続けていると「母」は回復した。

4 四国の大名に仕える「与右衛門」は、「母」が病気になるために荷物を置いたまま帰ると、「君侯」が荷物を届けさせたのでその後は安心して家で暮らし、「母」は病気が治り長生きした。

(問題は、これで終わりです。)

